

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
<p>(1) 公募委員 青柳理郎</p>	<p>○ 次世代育成支援策では様々な行政サービスが検討されておりますが、それを受ける個人や地域の環境についても検討する必要があります。つまり、今住んでいる街が本当に子どもや子育てにとって必要な要素がそろっているかということを地域毎に考えることで、地域全体が子ども・子育てについての理解を深め、協力できる体制が整うと考えます。</p> <p>○ このため、県として「子ども・子育て応援の街づくりモデルプラン」を策定することで子ども・子育てに関する県民の関心を喚起し、地域住民はそのモデルから自分たちができることを議論し地域独自の応援内容を決定することができます。</p> <p>○ 大分県として「子ども・子育て応援の県」を宣言し、各地域がそれに呼応する形で応援宣言を出してゆけば、全国に先駆けて次世代支援を実践する県になります。</p> <p>【提案】</p> <p>○ 「おおいた子ども・子育て応援の街づくりモデルプラン」の確立</p> <p>○ 「子ども・子育て支援の街づくりモデルプラン」では、街の設計というハードを含め、地域において子ども・子育てについて必要な要素を提示します。</p> <p>○ そのモデルプランの内容から、地域毎に自分たちが取り組みたい課題を抽出し、支援を生かす方法を決めて宣言するものとします。これらの対話を通じて、その地域独自の子ども・子育て応援の姿が形成され、地域の意識づくりに効果的と考えられます。</p> <p>○ モデルプランでは、子育てに冷たいと言われている街から、こんな街ならもうひとり生みたくなる街への転換を目指します。</p> <p style="text-align: center;">「おおいた子ども・子育て応援の街づくりモデルプラン」の要素案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにとって安心・安全な環境を整備する。 ・ 身近な遊び場をつくる、または既存の遊び場を活性化する。 ・ 誰にでも優しいユニバーサルデザインな街にする。 ・ ITを活用した子ども・子育て支援情報の提供を地域として行う。 ・ 地域として子育て支援の窓口となり忙しいお母さんを支援する。 ・ 活力のある街づくりを目指して多世代混住の街へシフトする。 ・ 子ども・子育てに理解のある地域を目指して地域コンセンサスをまとめる。
<p>(2) 大分県小中学校長会協議会 阿部三四子</p>	<p>[県教育委員会へ]</p> <p>○ 小学校1学年に30人学級編成を実施したところ、児童の基本的な生活習慣や学習習慣の早期定着を図ることができた。新聞やテレビで報じられているとおり。</p> <p>○ 文科省より県独自で学級編成ができるように緩和策が打ち出されそうである。(秋の中教審答中) これをふまえて是非とも2学年に拡大してほしい。</p> <p>※自らが学び考える力を育てる「ゆとり」の必要性 ※教師や親とのコミュニケーション能力の育成 ※基本的な生活習慣の確立(早寝・早起き・食事・挨拶など)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">学力向上への道</p>

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
<p>(3) 助産師 安倍本子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校からの父性・母性教育 目標： ①「生命の大切さ」を通して、自らの生命、相手の生命、新しい生命の大切さを学ぶ。 ②体験学習を通して、生命の大切さを体感する。 ③お互いを思いやる「思いやりの心」が育つ。 ④生命を受け継ぐことの大切さを学ぶ。 ⑤父性・母性意識が高揚し少子化を防ぐ。 ○ 小学校 「いのちの大切さ」を中心に、発達段階に応じ、繰り返し学ぶことで、父性として、母性としての意識が目覚める。 ○ 中学校 「自らの体と心」や「相手の体と心」、「妊娠・出産・育児」を具体的に学ぶことで、全ての生命の大切さを理解する。生命を受け継ぐことの大切さを学ぶことで、父性・母性意識を自覚する。 ○ 高等学校 「責任としての避妊法」や「人工妊娠中絶」や「性感染症」を予防することにより、人間としての「性を生きる」とはどういうことかを理解し、自分にも、相手にも新しい生命にも責任ある行動が取れる。
<p>(4) 大分県保育 連合会 安東知子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもと子育てにやさしい社会づくりへと転換し、共生と連帯の社会へと創り換えていく。それには、大人である私たちが、生き方や社会全体のあり方を見直す必要があると思う。支援対策関連機関を通じて、参加しやすい研修や講演会の場を持つてもらいたい。 ○ 今現在、ニートやフリーターと呼ばれている若者の自立・教育・働くということの意義を知らせ、働き方の見直しを行い若年者試用雇用を積極的に行ってほしい。小・中・高学生より就業に対して意欲を持たせる指導の強化。 ○ 発達障害児、問題行動のある子などの対応についての教育センターや支援施設との連携と、幼稚園や保育園と小学校で就学前教育に取り組む。
<p>(5) 公募委員 石和真紀子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大分の子どもたちに対して（小学生くらいまで）大分の自然や文化に触れる場・出会える場所（例：動物園・植物園・水族館・美術館…など）の料金を無料にするなど、大分県独自の取り組みが欲しい。 ○ 働いていない母親（専業主婦）が、子どもを少しの間預けて、少しでも自分の時間が持てるようベビーシッター的な役割を持つ人の確保・育成 ○ 未入園児を持つ母親が、子どもを少しの間（保育士などに）預けて、母親同士が（例えば、料理教室とかフラワー教室などを通して）コミュニティを築けるような取り組みが欲しい。 ○ 仕事をしたい、仕事を持ちたいと思う母親に対して、就職先の確保・支援、そして、子どもを安心して預けられるような環境の整備。 ○ 保育所だけでなく、私立幼稚園に通わせている保護者に対して、保育料をもう少し、補助していただきたい。 ○ 個人的に、絵本がもっと身近にあって、大きな図書館だけで借りられるのではなく、母親・子ども同士のコミュニティの場（児童館、子育て支援センターなどに）にたくさんあって、いつでも借りられるようなシステムがあったらいいのと思う。

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
(6) 大分県高等学校PTA 連合会 馬越敦子	○ 毎年出生率が減少していることに歯止めをかけねばならないので、 子どもを持つ喜び、大切さをできるだけ多くの若者に呼び掛けて欲しい。 (今、私は高P連一員として、毎年高校の統合廃校の話題に寂しさを覚えます。)
(7) 別府大学 大嶋美登子	○ 子育てが楽しいものであること、社会から応援されていることを伝える施策を望みます。 ○ 子育てをしたいと思う人たちへの経済的負担の軽減と、社会的支援の内容を具体的にその人たちへ伝えることを望みます。
(8) 別府市 岡部光瑞	○ 別府市において 行動計画を実施していくうえで、どの事業を実施するにしても財源確保が不可欠です。 その意味から、 事業計画を実施するための予算編成上、県からの財政支援をお願いしたい。
(9) 公募委員 後藤みか	○ 単親家庭グループホーム 離婚直後の不安定な時期は特に、 人的・物的支援、心理的サポートが必要 で子どもも影響を受けやすい。空き家やアパートを改築し、ユニット形式で運営。単親家庭が入居し、食事は手作りの温かいもの(食事の重要性)を。親も安心して働けると思う。 ○ 保育タクシー 介護タクシーの子ども版、通院や子どもだけを知人宅等に預ける場合に利用。事前登録制またはチケット制。 ○ 中高校生への子育て体験、教育 「難しい」といわれる子育てについて、日本ではそのノウハウの教育がなされていないに等しい。妊娠、出産が可能になる年齢から「 子育て 」に ふれる機会 をもつことは、自分を育ててくれた親への愛にもつながると思います。新米ママ・パパが講師になって日々の苦労や喜びを出前講義することなども良いのでは……。
	○ 子どもに関わる関係課を理想的な働き方のモデルに(県の関係機関) 子育て現役世代を優先配置し、当事者性を生かす。 ワークシェアリングなどで社会啓発。

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
<p>(10) フリーアナウンサー 後藤美和</p>	<p>○ 『お見合いおじちゃん・おばちゃんの復活！』</p> <p>県民会議委員の中で、唯一独身の私が興味を示す事業…それは結婚対策に関する事業です。</p> <p>今回の『平成17年度次世代育成支援対策関連事業』では、結婚対策の事業は設けられていませんでしたが、平成16年度版の「少子化対策関連資料集」には、秋田県と山形県が実施した様々な事業が掲載されていました。</p> <p>その中で興味深い事業が、秋田県鹿角市の『結婚相談員活動事業』でした。</p> <p>《結婚を希望する男女の相談や情報提供活動を行う相談員を市民の中から5名委嘱し、常時相談に応ずるほか、毎月1回の結婚相談日を開設する。 相談員謝礼 月9,000円 成立謝礼 一件50,000円》と書いてありました。</p> <p>以前は、年頃になると親戚や世話人からお見合いの話が持ち上がるのが一般的でした。</p> <p>しかし、現在はコミュニケーションの欠落からか、親戚や世話人が親身になって相談に乗る機会も少なくなりました。出逢いを求めている男女は大勢いるのに、それをかなえてくれる人がいない。ならば、それらを秋田県の事業と同様、相談員に託すことで相談者との新たな関係が生まれて来るのではないのでしょうか？</p> <p>パソコン等に結婚相談のサイトが多数ある中で、敢えてアナログにこだわり、データより相談員と相談者の信頼関係で結婚相手を探す方が、心の通じるパートナー選びが出来るのではないかと考えます。</p> <p>また、相談員は未婚の男女からだけでなく、親族からの相談にも応じればより身近な関係を築く事が出来るでしょう。</p> <p>更に、相談員に出産・育児を終えた女性や、定年後の男性を雇用することによって、職業支援にも繋がり、地域や世代のネットワーク作りにも役立つのではないのでしょうか。</p> <p>少子化対策関連資料の、結婚できない理由で男女とも一位にあげられた「適当な相手にめぐり会わない」は、相談員と言う『お見合いおじちゃん・おばちゃん』の復活によって、少しでも解決出来るのではないのでしょうか。</p> <p>そして、一組でも多いカップルが誕生することによって、少子化問題の緩和となれば良いと思います。</p>
<p>(11) NHK大分放送局 佐伯真規</p>	<p>○ 平成17年度次世代育成支援対策関連事業（第1回県民会議配布資料3）の事業項目が多すぎると思います。</p> <p>それぞれの部がこれまで行ってきた事業を予算確保のために次世代育成支援対策として提案しているようにも見えます。</p> <p>縦割りの事業計画という印象です。特別枠や新規のものにもっと重点を置いた検討をすべきと考えます。</p>
<p>(12) 大分県中小企業団体中央会 佐藤折也</p>	<p>○ 次世代育成支援は、子育て、教育、地域交流、安全等幅広く県の担当の方も大変だと思います。</p> <p>いずれにしても、長期にわたる粘り強い啓蒙と支援が必要であると思います。頑張ってください。</p>

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
<p>(13) 大分県商工会議所連合会 柴田文子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3日曜日の「家庭の日」の意義について再度考えて欲しい。毎月は無理でも、年に何度かは企業全体を休みにして両親を職場から解放して欲しい。両親は、心のゆとりを持つことが難しいのではないかな。 ○ 子どもを持つ親が家族のためにもっと時間を持つことが出来るようにしてあげたい。 ○ 次世代を育てるといっても、現在の親子関係について考え直すべきである。ただ、子どもをたくさん生んで欲しい、子育ては社会全体で見ますよ、なんて甘いことを言わずもっと現実を見つめ、対策を立てていくべきだと思う。 ○ 母親が仕事をしている子ども（小学生、中学生）が安心して集まって宿題をしたり、遊んだりできる場所を提供して欲しい。指導できる大人が1人でもついてあげられると理想的。 公共の保育施設をもっと完備して欲しい。保育施設の充実を図って欲しい。 ○ 保育時間の延長（兄弟一緒に保育時間を延長する）をして欲しい。 ○ 地域ボランティアをもっと利用して欲しい。 ○ 保育施設と老人保護施設を併用してみてもどうか。 老人にとって子どもは、そばに居ることで生きる力、生きがいを与えてくれる存在。老人保護施設を保育園の近くに作って積極的な交流をする。子どもにもいい影響を与えたいと思う。 ○ 幼稚園以下の子どもを預かってくれる施設をもっと作って欲しい。 ○ 学校や公共の図書館を開放して子どもが気軽に利用できるようにして欲しい。また、身につく利用方法などを教えてあげて欲しい。 ○ 長期休暇期間に地区の公民館を開放し、子どもが気軽に利用できるようにして欲しい。 ○ 子どもは国にとっても大事な資産。学校教育においても子どもを生き育てることの大切さを教えて欲しい。 ○ 福祉予算配分時、子育て部門にもっと予算を配分して欲しい。
<p>(14) 公募委員 瀧本久美</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国庫補助の対象とならない小規模放課後児童クラブに対して県単独で運営費を補助し放課後児童クラブの設置促進を図る。 ○ 第3子以降の保育料・給食費・教材費の無料化を取りくんでほしい。（16年度3月まで挾間町で実施） ○ 子育てサークルを実施している会の会場費（公民館など）を無料になるようにしてほしい。
<p>(15) 株式会社エフエム大分 TOM G</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関連事業の数が非常に多いと感じました。果たして今、すべてが必要なものか？お金のかかることですから、しっかりと吟味していただき無駄をなくして欲しいと思います。
<p>(16) 社会保険労務士 西村慶治</p>	<p>既に県庁各部署において取り組みが進んでいますが、より一層以下のような方向での事業推進をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども達はもちろんのこと、現場で尽力されている当事者の生の声が遅滞なくフィードバックされるしくみの確保。 ○ 環境変化に迅速に対応できるような、柔軟な予算の執行。 ○ 県庁各部署のみならず、市町村や各種団体で同種の事業が行われる際には共催あるいは日程調整等の検討。 ○ 集める（来てもらう）事業から、必要とされている所へ出掛ける事業へ。

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
<p>(17) 大分県高等学校長協会 波多野順代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次世代育成支援を進める中で、「意識づくり」と「子育ても仕事もしやすい環境づくり」が重要であると考えます。 ○ 特に、「子育ても仕事もしやすい環境づくり」については、現在の県の対策事業をより細やかなものにする必要があると感ずる。
<p>(18) (株)大分放送 藤川和子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの関連事業がありますが、それらの横のつながりは、どうなっているのでしょうか。横のつながりの強化も必要と考えます。 ○ 生き方、価値観が、多様化している中で、なかなか、子どもに対しての評価の価値観は、変わらないように感じています。大人のその辺の価値観をどう変えていくのか、その取り組みも必要なのでは？いろいろな大人の生き方を子どもに紹介する場として、学校教育の中で「職場体験」などが入ってきていますが、大人に対しても、何か、取り組みが必要なのではないでしょうか。 ○ 「普通の子」が、なにをやるのかわからない、といった現代。そうした不安が、少子化の要因にもなっているのではと考えます。そうした不安を取り除くには、どうすればいいのか。
<p>(19) 大分県医師会 藤本 保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児等保健指導（ペリネイタル・ビジット）の県下全市町村での実施 ○ 現状：大分市・別府市・杵築市において実施。 (国1/3、県1/3、市町村1/3の補助事業) ○ 経緯：平成13年度、厚生労働省から日本医師会を通じて「出産前小児保健指導（ペリネイタル・ビジット）モデル事業」の公募があり、全国で48箇所が応募、大分県からは大分市・臼杵市・大野郡の3医師会が応募した。 国の予算枠24箇所に対し2倍の応募があったことから、日本医師会が独自に予算を付けて手挙げした全ての地区でモデル事業が実施された。 この際、大分県では県内全域を対象として本事業を実施し多大の成果をあげ、モデル事業の中のモデルと賞賛された。 この成果を受け、平成14年度は大分県医師会・大分県産婦人科医会・大分県小児科医会の三者で基金を作り「周産期小児保健指導（ペリネイタル・ビジット）」として継続し、平成15年度に大分市と別府市において本事業としての「育児保健指導（ペリネイタル・ビジット）」として実施されることとなった。 この2市以外に在住する妊産婦に対しては前述三者による拠出金により賄うことで大分方式のペリネイタル・ビジット事業が継続され、さらに平成16年度からは杵築市が加わって、現在、3市ならびに大分県医師会・大分県産婦人科医会・大分県小児科医会の拠出金による基金でもって運用されて事業を継続している。 3市以外在住の妊産婦の利用も多く、早期に県下全市での実施が期待される。このような状況であるがゆえに県の次世代育成支援として最も実効性のある事業であるといえるものであり、県として重点実施項目として採り上げていただきたい。 ○ だれに対して：県下全市町村 ○ 何を：大分方式育児等保健指導（ペリネイタル・ビジット） ○ どのように：周産期からの育児支援を目的とし、育児不安の解消および産後のうつ等を予防または早期発見し、妊産婦の健全な生活を保障し、将来、発生しうる虐待を予防する。県内の対象妊産婦として、年間約5000名と推定。このうち80%が利用すると考えられる。方法は、妊娠後期（おおむね妊娠28週以後）から出生後56日以内の妊産婦に対して産科から小児科へ紹介し、小児科で指導して紹介元の産婦人科と大分県医師会を通じて市町村へ報告し、県医師会・産婦人科医会・小児科医会・県健康対策課保健師・市町村保健師からなる専門部会で審議し、必要な妊産婦へ保健師等の訪問を行い育児支援する。

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
(20) 大分県私立 幼稚園連合 会 牧野由子	○ 今の日本の社会全体をみてみると、ゆとりがなく、大人にとっていかに都合がよいかにか重点がおかれているように感じられる。そんな状況の中では、子育ての楽しさを考える余裕がないように思われる。又子どもを生んでも目まぐるしい流れの中で経済的にも育てる自信をもてない人が多いのではないだろうか。「子は宝」つまり「日本の宝」である子ども達にあまりひかりがあたっていないように感じる。乳児期の親子のふれあい幼児期の自立への教育の大切さ等…。 安心して子どもを生み育てるには、 精神面でのサポートと、経済的援助がなくて は、 少子化の流れは止まらないし、人間としての心の育ちはできないのではない だろうか。
(21) 大分県民生 委員児童委 員協議会 三宅桂子	○ 子育てサークル を作る時の企画調整実施相談の担当を明確にし、 運営の支援 が欲しい。 ○ 大分市でいえば保健所主催の「赤ちゃん広場」のような場作りの指導者が欲しい。 ○ 必要性は感じてても運営の不安から子育てサークルが増えていない。 ○ 保健師・保育士を担当者 にして、各サークルを指導したり、相談にのるなどが欲しい。
(22) 大分大学 山岸治男	○ 子育て・子育て環境を下の図のようにとらえた上で、下に意見を記します。 <div style="text-align: center;"> </div> <p>※家庭・保護者にプラスの教育力をつけ、プラスの情報環境を活用して、プラスの地域環境を整備すること</p> <p>※家庭・保護者にマイナスの教育をしないための支援を継続し、マイナスの地域環境やマイナスの情報環境に制限を加えること 具体化策として ↓</p> ○ ex 1. 「母子手帳」を参照にし、 小学校入学時に「大人への旅手帳」 の類を持たせては？成人式までの主な通過儀礼ごとに関わった責任者がシールをはったり、記入したりし、成人式をもって旅の終わり、完了とする形式にしては？ただし、プライバシー保護の課題が1つ残ります。
	○ ex 2. 子育て民俗 を調査し、地域や諸団体（NPO法人、PTA、ボランティアの会など）で取り組むことができる内容について推薦の上、若干の資金援助を行うことはどうでしょうか。

次世代育成支援施策に関する意見・提案

氏 名	意 見 ・ 提 案 の 内 容
(23) 大分合同新聞社 山本吉純	○ 理想の数の子どもをもてない理由 「経済的負担感」 「仕事との両立の困難さ」の解消
(24) 大分県PTA連合会 吉川喜代美	○ 少子化を少しでも解消するためには、1人でも多く子どもを生み育てるしかない。今生まれた子どもが20年後に立派な社会人として生きていくために、1人生むのをためらっている親が1人を生める方法、3人生んで4人目を生める方法を考えてほしいと思います。 ○ 個人的には体力と経済力が許せば、子どもは何人でもほしいと思っています。 ○ 県なり市町村の行政なりが4人目からの子どもに対する支援、例えば4人目は小学生の間、教育費、医療費などが補助される、4人目からの児童手当は長くもらえるとかあれば良いと思います。 ○ テレビなどで言われている国、行政のムダづかいをきちんと考え直せば不可能なことではないように思われます。